

授業概要

哲学について、初歩から学び、基本的な理解を身につけます。古代ギリシャの哲学からはじめて20世紀まで、中世、ルネサンス、近世、近代、20世紀、そして現代と西洋全般を分け隔てなく学びます。

哲学の歴史（history）を流れる物語（story）をたどることで、偉大な哲学者の思想を理解します。

授業計画

| | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 哲学をどのように学ぶか 西洋哲学と東洋哲学、哲学史と哲学概論 |
| 第 2 回 | 古代ギリシャ哲学（1） 前ソクラテス期、ソクラテス、プラトン |
| 第 3 回 | 古代ギリシャ哲学（2） アリストテレス、ストア哲学 |
| 第 4 回 | 中世哲学 プロティノス、アウグスティヌス、トマス・アキナスほか |
| 第 5 回 | レポートの書き方（1） |
| 第 6 回 | 近世哲学（1） イギリス経験論（ベイコン、ホブズ、ロック、ヒュームほか） |
| 第 7 回 | 近世哲学（2） 大陸号理論（デカルト、パスカル、スピノザ、ライプニッツほか） |
| 第 8 回 | 近代哲学（1） カントの批判哲学（1） |
| 第 9 回 | 近代哲学（2） カントの批判哲学（2） |
| 第 10 回 | レポートの書き方（2） |
| 第 11 回 | 近代哲学（3） ドイツ観念論（フィヒテ、シェリング、ヘーゲルほか） |
| 第 12 回 | 近代哲学（4） 19 世紀（ショーペンハウアー、ニーチェ、ミルほか） |
| 第 13 回 | 20 世紀哲学（1） フッサール現象学とハイデガー |
| 第 14 回 | 20 世紀哲学（2） 英米哲学とフランス哲学 |
| 第 15 回 | 全体のまとめ |
| 第 16 回 | 筆記試験（教場レポート形式） |

到達目標

- 哲学史を通じて哲学の重要問題について理解する。
- 哲学を教養として身につけ、さらに主体的に考えるための道具にできるようにする。
- 哲学を基礎として、西洋文化のさまざまな分野（芸術、歴史等）の理解を深める。

履修上の注意

- 初心者から中・上級者まで、広く受講できる授業です。
- 既習内容についてはこまめに復習して定着させるよう努めましょう。
- 疑問点を日頃から用意し整理しておきましょう。

予習復習

- 教材をきちんと整理・保管し、授業で学んだことを復習しておくこと。
- 次回以降の課題についても、自分で調べられるものは読んでおくなどの望ましい。

評価方法

- 平常点（レビューシート等による授業への積極的な参加）50%
- 筆記試験（教場レポート形式、あらかじめ提示された課題について論ずる。自作ノート持込可）50%

テキスト

- 教科書名：『哲学・倫理学の歴史』
- 著者名：伊野 連
- 出版社名：三恵社
- 出版年：2016年

その他、パワーポイント、プリント等を配布することもあります。

- 参考書名：『ドイツ近代哲学における藝術の形而上学』
 - 著者名：伊野 連
 - 出版社名：リベルタス出版
 - 出版年：2012年
- それ以外のものはそのつど教室で指示します。